

情報・システム研究機構経営協議会（平成28年度第5回）議事要旨

日 時：平成29年3月22日（水）10：00～12：00

場 所：情報・システム研究機構会議室

出席者：國井秀子委員、佐々木卓治委員、篠崎一雄委員、辻篤子委員、富樫茂子委員、所眞理雄委員、保坂直紀委員、北川源四郎委員（議長）、藤井良一委員、桂勲委員、樋口知之委員、白石和行委員、喜連川優委員、野木義史委員、本位田真一委員、田村義保委員、仁木宏典委員、後藤寛委員

陪席者：

（理事）大山理事

（監事）鈴木監事、横山監事

（事務局）塩原事務局次長、小野寺総務課長、成田財務課長、田原 URAS マネージャー、
笹島監査室長

（研究所）長谷川極地研・統数研統合事務部長、武川情報研企画課長、
能住極地研・統数研統合事務部共通事務センター長、中島遺伝研管理部長

議事に先立ち、議長より、本会の成立要件の確認があった。

議 事：

【審議事項】

（1）役員退職手当の業績勘案率について

藤井理事より、資料1-1、1-2に基づき説明があり、審議の結果、1.0が適当とされた。

（2）組織運営規則の一部改正について

藤井理事より、資料2-1～2-3に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会においても審議を行った後、役員会にて審議することが了承された。

（3）役員給与規程の一部改正について

藤井理事より、資料3-1、3-2に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

（4）就業規則等の一部改正（職員給与規程）について

藤井理事より、資料4-1、4-2に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会においても審議を行い、過半数労働者代表へ意見照会を行った後、役員会にて審議することが了承された。

(5) 外部評価を受けての対応について

北川機構長及び藤井理事より、資料5-1、5-2に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会においても審議を行った後、役員会にて審議することが了承された。

委員より、Action Items の実施に当たっては、実際に実行に当たる研究所等の職員が経緯を理解できるよう考慮すべきという旨の意見があった。

(6) 平成29年度計画について

藤井理事より、資料6に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会において報告の上、役員会にて審議することが了承された。

(7) 平成29年度機構内予算配分について

藤井理事より、資料7-1～7-3に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会において報告の上、役員会にて審議することが了承された。

(8) インフラ長寿命化計画（行動計画）について

藤井理事より、資料8-1～8-3に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会において報告の上、役員会にて審議することが了承された。

委員より、国立大学との光熱水費の比較は表現を工夫し、大学共同利用機関法人としての特殊性により差が生じていることが分かるようすべきという旨の意見があった。

【報告事項】

(1) 平成28年度 監事監査報告（中間報告）について

横山監事より、資料9に基づき報告があった。

(2) 平成29年度 監事監査計画について

横山監事より、資料10に基づき報告があった。

(3) 役員等一覧等について

藤井理事より、資料11に基づき報告があった。

(4) 研究環境基盤部会 今後の共同利用・共同研究体制の在り方について

北川機構長より、資料12に基づき報告があった。

この研究環境基盤部会の意見の整理等も踏まえ、改めて外部委員から一言ずつコメントをいただいた。

- 国からの要求に対応していくことも大切であるが、各研究所の中で自発的に芽生えてくる研究もあるので、そういうものを伸ばしていきつつ大学との連携を深めていけば、機構の存在意義が増すのではないかと思う。

- 科学が担う社会的責任・信頼については、常に認識すべき。ただし、その社会的責任は、民間が取り組んでいるような直近のことを考えた研究やすぐに役立つ研究ということではなく、機構はその次の時代を見据えた研究に取り組むべき。
- 機構には大学との差別化を求められていると思う。個別研究とプロジェクト研究の調和について考えていただきたい。
- 次の時代の日本の研究を支える人材を育成するシステムを是非作っていただきたい。民間の人材を引き込むことも考える必要があるのではないかな。
- 追い風が吹いているときこそ、流されてしまわないように自らのミッションを明確に持ち、先を見通すことが重要となってくるだろう。この機構はデータを作るところとデータを使うところが集まっているので、その両面で研究コミュニティに貢献できるよう、機構の役割を見据えて頑張ってもらいたい。
- この機構の特徴は分野の異なる研究所が集まって新しい取組みを試みていることだと感じている。それぞれの研究所の独自性を伸ばしつつ、上手く新たな研究分野を創造していただくことを期待している。
- 次世代の育成のためには、小中学生が科学に興味を持ってもらうことが重要である。そのために研究成果の発信に力を入れるべき。
- 北川機構長の間については、一時、特に機構運営が大変だったと思うがようやく機構としての形になってきたと思うので、今後の発展を期待している。ただし、体制が強固なものになると、一方で研究者が息苦しくなることもあるので、研究者現場はのびのびと活動できるよう配慮していただきたい。そのためには、研究者が創造性を発揮できる環境を整えること、研究の芽を育む評価システムを構築すること、UR Aが研究者目線に立つことが必要なのではないかな。
- 広報は組織のトップの意向が強く反映されるので、是非リーダーシップを発揮して力を入れるべき。社会もそれを期待していると思う。
- IT 分野が重要視され、産業界では大きな変化が起こっているにも関わらず、アカデミアの世界ではほとんど規模の変化が起きていないことに危機感を感じている。もっとダイナミックに人を動かして、社会との連携の仕組みを変えていくべき。

- ・ 前回議事要旨（案）については、特段の意見はなく、原案のとおり了承された。
- ・ 北川機構長から、委員に2年間の任期満了に伴うお礼の挨拶があった。

（次回の経営協議会の日程について）

- ・ 次回の経営協議会は、6月26日（月）13：30から開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・ 前回議事要旨（案）
- ・ 役員退職手当の業績勘案率について・・・・・・・・・・【資料1－1】（机上配布）
- ・ 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料1－2】
- ・ 組織運営規則の一部改正について（案）・・・・・・・・・・【資料2－1】
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則（新旧対照表）・・・・・・・・・・【資料2－2】
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則（改正案）・・・・・・・・・・【資料2－3】
- ・ 役員給与規程の一部改正事項（案）・・・・・・・・・・【資料3－1】
- ・ 情報・システム研究機構役員給与規程（新旧対照表）・・・・・・・・・・【資料3－2】
- ・ 就業規則（職員給与規程）の一部改正事項（案）・・・・・・・・・・【資料4－1】
- ・ 情報・システム研究機構職員給与規程（新旧対照表）・・・・・・・・・・【資料4－2】
- ・ 外部評価委員会による評価報告・・・・・・・・・・【資料5－1】
- ・ 外部評価を受けての Action Items 及び対応・・・・・・・・・・【資料5－2】
- ・ 平成29年度計画（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 6】
- ・ 平成29年度大学共同利用機関運営費予算配分の概要・・・・・・・・・・【資料7－1】
- ・ 平成29年度機能強化経費予算配分の概要・・・・・・・・・・【資料7－2】
- ・ 平成29年度特殊要因経費予算配分の概要・・・・・・・・・・【資料7－3】
- ・ インフラ長寿命化計画（行動計画）について・・・・・・・・・・【資料8－1】
- ・ インフラ長寿命化計画（行動計画・個別施設計画）の策定について・・【資料8－2】
- ・ インフラ長寿命化計画（行動計画）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料8－3】
- ・ 平成28年度監事監査報告（中間報告）・・・・・・・・・・【資料 9】
- ・ 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 平成29年度監査計画書・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 10】
- ・ 情報・システム研究機構役員等一覧・・・・・・・・・・【資料 11】
- ・ 今後の共同利用・研究体制在り方について（意見の整理）・・・・・・・・・・【資料 12】